

令和7年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	104

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる) 2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 東雲小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
B:肯定率の平均が60%以上90%未満
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 山内 望

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員 学校 関係者	95	53	42	0	5	3.4	○全教職員が、授業研究を通して、児童の自立した学習者としての具体的な姿を共有するとともに、松山の授業モデルに沿った授業改善に努めた。
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルをそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員 学校 関係者	95	74	21	5	0	3.7	○書くことが苦手な児童にとって、タブレット学習は非常に有効であった。ICT活用が日常化し、アナログとデジタルの質の高いハイブリッドな授業を行うことができた。
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向けて計画的に指導を行っている。	A	教職員 学校 関係者	100	53	47	0	0	3.5	○学力向上推進計画に基づいて全教職員で指導を行い、成果や課題を共有している。家庭の教育力も高く、高い学力水準を維持することができている。
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員 学校 関係者	100	63	37	0	0	3.6	◆郷土資料「ふるさと松山学」を各教科の単元構想に効果的に盛り込むことで、系統的、計画的にふるさとを愛する児童の育成に努めている。
	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員 学校 関係者	100	79	21	0	0	3.8	○毎月我的生活調査等で実態を把握するだけでなく、道徳科を軸に置きながら、日々の生活の中で、児童の人権意識を育てる指導を継続できた。
人権・同和教育・生徒指導	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員 学校 関係者	100	63	37	0	0	3.6	○学校のきまりを教職員と児童とで随時、確認することで落ち着いた学校生活を送れた。 ◆挨拶には、個人差が見られるが、児童会の主体的な取組を継続している。
	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員 学校 関係者	95	21	74	0	5	3.1	◆今後より一層、各学年、どのような力を育てたいのかを明確にし、児童が様々な対象との出会いを通して、自分自身を見つめる教育活動の工夫を行う。
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止につに適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員 学校 関係者	100	63	37	0	0	3.6	○交通安全について、生徒指導主事が呼び掛けたり、PTAの朝の見守り当番報告書等を基に教職員で情報共有して指導に当たったりするなど、迅速な指導を行うことができた。
	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員 学校 関係者	100	68	32	0	0	3.7	◆高学年になるに従い、早寝ができていない児童が多い。今後も継続して、「早起き朝ごはんチャレンジデー」を設定し、家庭でのルール作りへの啓発を図るよう努める。
保健管理	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員 学校 関係者	100	79	21	0	0	3.8	○清潔で安全な学校環境を保つため、教職員が連携して、換気、手指消毒への指導を行った。また、感染症等拡大を防ぐ対応や家庭への啓発も、迅速かつ丁寧に行った。
	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員 学校 関係者	95	58	37	0	5	3.5	○教職員間で日常的に情報共有を行い、児童理解に努めた。特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、学年主任、関係諸機関と密に連携を図りながら適切な支援に努める
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員 学校 関係者	100	68	32	0	0	3.7	○教務主任を中心に、学年主任や各教科等の主任が、それぞれの立場で建設的な意見を出し合い、迅速に管理職と情報共有することで、組織的な対応を行うことができた。
	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員 学校 関係者	95	63	32	5	0	3.6	○研修主任を中心に、「つながり」を意識したよりよい授業づくりに向けた研修を行った。また、生成AIや動画作成アプリなど実効性のある研修を計画的に行うことができた。
保護者・地域との連携	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員 学校 関係者	100	68	32	0	0	3.7	○地域ボランティア・PTAボランティアの方々の協力により、教育活動の充実を図ることができた。また、校外学習では、児童の安全・安心を保障することができた。
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員 学校 関係者	85	53	32	10	5	3.3	○校報のしめ、学年だより、ホームページ等で、学校や児童の様子を随時、発信した。 ◆各学年の児童の学びの姿を掲載することによって、より魅力的なホームページを心がける。
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展覧会の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員 学校 関係者	95	48	47	0	5	3.4	○「聴き方名人になろう」の掲示により、全校でよい聞き方・話し方を意識できた。また、「今月の詩」の掲示により、美しい言葉の響きや表現の美しさに触れることができた。
	学校は、小1プログラムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員 学校 関係者	95	48	47	0	5	3.4	○6年生は、年間を通して中学生との交流を図り、進学への不安感解消に努めた。 ◆各学年の児童の学びの姿を掲載することによって、より魅力的なホームページを心がける。
幼小小中連携	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員 学校 関係者	95	53	42	5	0	3.5	○東校区の四校連携で行う合同研修会や授業参観等により、児童生徒理解に努めた。 ◆再度、四校の理念共有を図り、9年間を見通した系統性のある教科指導につなげる。
		A	教職員 学校 関係者	100	100	0	0	0	4.0	